

2010年2月12日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

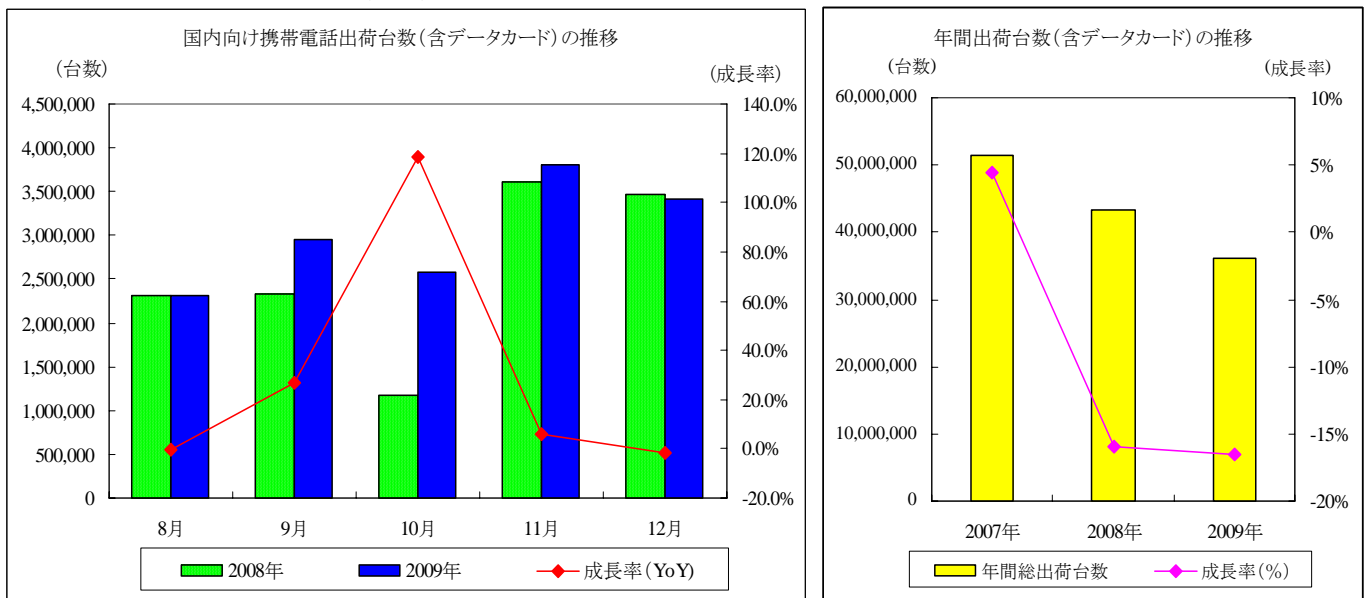
## 2009年12月の国内携帯電話出荷台数は前年同月比で微減に推移

～ 2009年の国内携帯電話市場は総出荷台数3,600万台で幕を閉じる ～

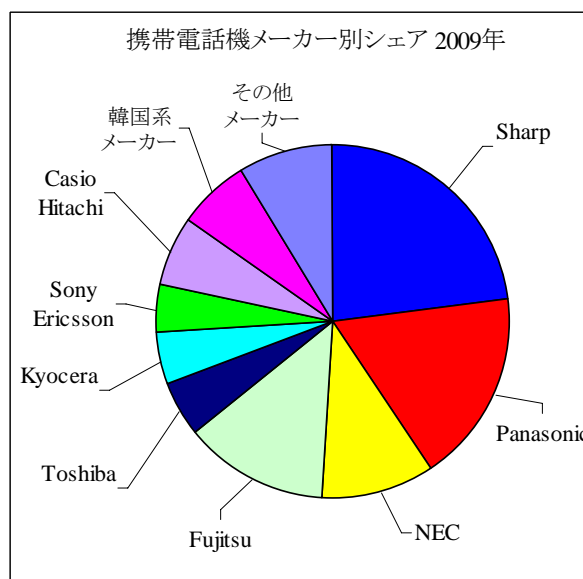
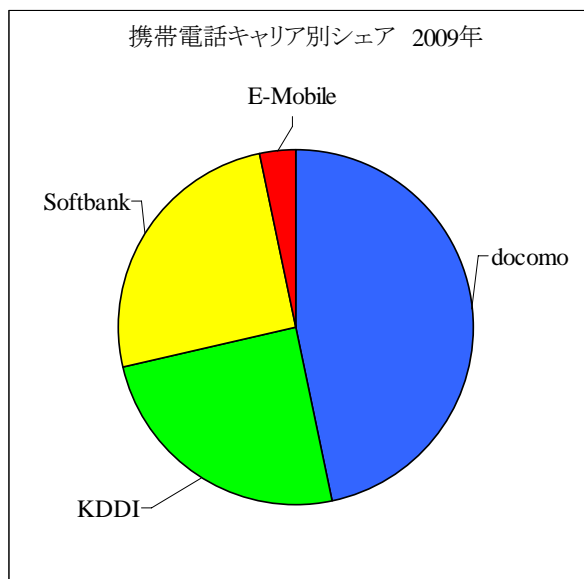
株式会社テクノ・システム・リサーチは国内市場向け携帯電話出荷台数の統計資料『月刊携帯電話機出荷統計情報』2009年12月号を2010年2月初旬に発刊しました。

2009年12月の国内携帯電話出荷台数は、データ通信カード(WILLCOM CORE 3G等も含む)と合わせて341万5千台であった。高成長を記録した11月と比べると落ち込みを見せたが、前年同月比98.3%と微減に踏みとどまった。12月は主要3キャリア合わせて14モデルの新製品が発売されたが、そのうち5モデルが11月中に初回出荷を済ませており、12月に発売される新製品の初回出荷は実質的に9モデルのみであった。

12月はdocomoが新製品5モデルを発売したが、そのうち初回出荷は3モデルだけであり、月間の合計出荷台数は150万台余りとなり、前月比でマイナス成長となった。KDDIは新製品2モデルを発売したが、いずれも初回出荷を11月中に行なっていたため12月に初回出荷となった製品はなく、出荷台数は80万台を辛うじて上回ったが、前月比ではマイナス成長となった。これら2社とは対照的に前月比でプラス成長だったのがSoftbankだった。docomoとKDDIが対前月比に加え前年同月比もマイナス成長だったのに対して、同社はいずれにおいてもプラス成長を記録し、12月は90万台を越す出荷を記録した。同社の主な成長要因として、12月より始まった「iPhone for everybody キャンペーン」による「iPhone 3GS」の順調な出荷増が上げられる。



2009年の年間出荷台数は3,600万台を辛うじて上回ったが、前年比でマイナス16.6%と2年連続のマイナス成長で終わった。キャリア別の年間出荷状況を見てみると、docomo向け出荷は1,679万9千台と2,000万台を大きく割り込み、対前年比で辛うじて80%を保つ水準にとどまった。KDDI向けはdocomo以上に苦戦を強いられ、出荷台数は900万台を割り込み、対前年比では70.6%と大きく落ち込んだ。Softbank向け出荷は対前年比で101.5%と年間出荷でもプラス成長となり、総出荷台数は900万台を上回りKDDIを追い抜き市場2位に躍進した。また、E-Mobileもデータカード需要の高まりを受けて対前年比で大きく成長した。



携帯電話機メーカーの12月出荷状況を見てみると、11月に久々に100万台を突破したSharpだったが12月は70万台まで落ち込み、またFujitsuの出荷台数も大きく減少した。その一方で、12月に新製品の初回出荷（docomo向け2モデル、Softbank向け1モデル）を行なったNECが久々に40万台を上回る出荷を記録し、また同様に新製品の初回出荷を行なったPanasonicも出荷台数を伸ばした。

主要メーカーの年間出荷台数を見てみると、Sharpは830万台を上回りトップシェアをキープしたが前年比でマイナス15%程度の落ち込みとなった。Panasonicは前年に引き続き600万台を越す出荷を果たし2位をキープしたが、前年比ではマイナス成長に終わった。日系メーカーで唯一プラス成長を記録したのはFujitsuであり、出荷台数は480万台を上回り市場シェア3位に躍り出た。4位に転落したNECは400万台を大きく割り込み前年と比べて100万台以上の減少となった。5位には昨年7位だったCasio Hitachiがランクインした。その他、主にKDDI向けに出荷を行なっているToshibaとSony Ericssonの出荷台数が昨年と比べて半分前後まで減少し、Kyoceraも旧Sanyoブランドと合わせると大きく落ち込み、これら3社はいずれも年間出荷台数が200万に満たなかった。2009年は韓国系メーカー等の海外メーカーが大きく躍進した年であった。Samsung、LG、Pantechの3社合わせて前年比で160%近い成長を遂げ、出荷総数は250万台に達する勢いを見せた。AppleやHuaweiなども順調に出荷を伸ばし、市場全体は前年比マイナス成長だったが海外勢全体は前年比でプラス成長を記録した。2010年以降も海外メーカーの勢いは衰えず、市場シェアを高めていくことが見込まれる。

2010年1月以降の市場は、冬春モデル商戦の後半戦が始まるため出荷が大きく伸びることが予想される。特に各キャリアとも、未発売の新製品が10モデル前後あるため、年度末に向けて出荷台数は順調に伸びていくことが見込まれる。また、年末に発売済みの冬モデルの中にもロングランセールが期待できる製品も多くあり、冬春モデル商戦の後半戦の景況が2010年の市場動向を占うものになると見られる。

【2009年12月発売の新製品】

キャリア	docomo				KDDI		Softbank							
モデル	F-03B	SH-04B	N-01B	N-02B	L-02B	BRAVIA Phone UI	PRISMOID	940P	840P	940N	X01SC	X02T	C02SW	C02LC
メーカー	Fujitsu	Sharp	NEC		LG	Sony Ericsson	Kyocera	Panasonic		NEC	Samsung	Toshiba	Sierra Wireless	Longcheer

【資料紹介】

『月刊携帯電話機出荷統計情報』は各携帯電話機メーカーの通信事業者向け出荷台数を、毎月各モデル別に調査し統計を取って資料として纏めており、モデル別データを必要とする顧客にとって最適の資料となります。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ  
 第2グループ 武花勇一(takehana@t-s-r.co.jp) 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)  
 TEL:03-3866-4505 / e-Mail:info@t-s-r.co.jp